

加賀市立橋立小学校 校長 紙井 かおる 印

学校教育ビジョン【学校教育目標】心豊かにたくましく自らの生き方を創造する児童生徒の育成										
【目指す子ども像】				【経営目標】						
・自ら進んで学び、将来の夢に向かって努力する子（自主性） ・思いやりの心を持ち、他者も自分も大切にすること（道徳心） ・社会のルールやマナーを守り、責任を持って行動できる子（社会性） ・心身ともに健康で、何事にも根気強く挑戦し、やり遂げる子（健康な心身）				（１）授業改善のために主体的に研究・研鑽し、確かな学力の向上に努める。 （２）暖かく優しい心を育成し、互いの良さを認め合える人間関係づくりに努める。 （３）基本的な生活習慣を身につけ、健やかな体の育成に努める。 （４）小中併設校の特色を生かした連携の取組を深め、学校・家庭・地域との連携に努める。 （５）組織的・機能的な学校運営に努める。						
評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果 (中間)	判定結果 (最終)	今後の改善策
①教育課程・学習指導	基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着を図り、学力向上をめざす。	授業のドリル練習・スキルタイム・家庭学習を通して漢字や計算の力の定着に向けて、反復練習させるとともに、個別の指導を実施させる。	学習指導部 (教務主任・研究主任)	スキルタイムや小テストの実施等により、漢字力や計算力は年々向上しているが、国語や学年によって基礎学力の定着に差がある。	【成果指標】 学年相当の漢字、計算の力が身についている。	学年相当の漢字、計算の結果が80%以上である児童の割合が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	漢字・計算の確認テスト(学期末)	B	A	2学期終了時の目標数値はクリアしたが、ボトム層にいる特定の児童のサポート体制をとりながら全体のレベルアップにつなげる。
	学習習慣の確立に努め、主体的な学習態度を育てる。	自主学習ノートは、年間3冊と目標を明確にして取り組む。ノートの質の向上に向け、ノート・プリント、成果物をチェックすることとレベルアップにつなげる。	学習指導部 (教務主任・研究主任)	目標数の設定や家庭学習習慣形成等の取り組みは定着してきているが、ノートの内容は、個人によってかたがたが見られる。	【満足度指標】 自主学習ノートの内容が工夫できている。	ノートの内容が工夫できているという教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	教師が毎日のノートでチェック	A	A	自主ノートへの取り組みは、定着し安定している。低学年の取り組み状況も良好であるが、継続性と質の向上を目指したい。
②生徒指導 ※いじめの未然防止	学校全体でいじめの未然防止に努め、いじめのない学校づくりを推進する。	いじめアンケート・Q&U調査など児童の目録の様子などをもとに、児童や保護者と密接な関わりを大切にする。	生徒指導主事・道徳推進教師	きめ細やかな児童や保護者との関わりを推進してきた結果、深刻ないじめはないが、互いを思いやる優しい心をさらに育てていきたい。	【満足度指標】 児童が友人関係などで悩んだときに、相談できる人がある。	友人関係などで悩んだときに、相談できる人が A: 100% B: 90%以上 C: 80%以上 D: 80%未満	児童対象アンケート(学期末)	B	B	児童理解の会やQ&Uを活用し、先生方全員で全校児童を見守るということを大切にしていきたい。
	明るく、自分からあいさつができる子どもたちを育てる。	児童会・学級会で目標を立て、さらに職員向け取り組みを工夫してあいさつ運動に取り組む。	生徒指導部 (生徒指導主事・道徳推進教師)	自分からあいさつできる児童が少ない。自分からあいさつをしてくれていても、声が聞こえないことが多い。	【満足度指標】 明るいあいさつが、自分からできる。	明るいあいさつができる児童が多いと判断する教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	教職員アンケート(学期末)	B	B	朝の玄関先でのあいさつは自分からできる児童が増えた。そのあいさつを他の場面でも広めていくように指導していく。
③キャリア教育・進路指導	自己理解、自己管理能力を意識したキャリア教育を推進する。	キャリア教育でつづいた力や重点項目を意識し、年間指導計画に沿った活動を行う。また、キャリアパスポートを活用し、活動後の振り返りを実施させる。	生徒指導部 (キャリア教育担当)	キャリアパスポートの活用として新たな取り組みと義務教育9年のスパンでキャリア教育を意識して進めている。	【満足度指標】 活動後振り返りを行うことで、児童の自己理解、自己責任能力が高まっている。	振り返りを行うことで、児童の自己理解・自己責任能力が高まっていると判断する教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	教職員アンケート(学期末)	B	B	自己を振り返りながら、自分の成長の過程を確認していくためのキャリアパスポートを有効に活用していく。
④保健管理	自ら進んで、健康なからたをつくらうとする態度を育てる。	学期始めに「げんきアップ週間」を実施し、自分の生活を振り返る機会を持たせる。	保健指導部 (保健主事・養護教諭)	児童・児童に対する適切な対応策を模索しながら、実践している。	【成果指標】 期間中清潔な生活を実践している児童の割合が	期間中清潔な生活を実践している児童の割合が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	元気アップカード(実施後)	A	A	元気アップ週間に関するだけでなく、どの学年も普段からしっかりと取り組み、清潔な生活を支えていることが習慣になっている。今後も手洗いや消毒、密を避ける・体温測定などの健康チェックを徹底していく。
⑤安全指導	安全教育を推進し、職員の危機管理能力と危機対応能力を高める。	避難訓練は、本校の地理的条件等を想定して行う。その他、防災対策に対する職員の研修を行い安全意識の高めを図る。	教頭・安全教育担当	避難訓練は小中合同で行い、本校の立地条件から想定した訓練を行いやすい。また、安全教育に対する職員の意識の高めを図る。	【満足度指標】 避難訓練や研修会を通じて、危機管理意識や危機対応能力が高まっている。	避難訓練や研修会の実施により、危機管理意識や危機対応能力が高まっていると判断する教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	教職員アンケート(学期末)	A	A	新型コロナウイルス感染症に対する安全指導や登下校の出入による安全指導の対応、不審者対応は地域の方や保護者、警察と連携して行うことができた。中学校との合同での避難訓練は、感染対策の面からも工夫を取り組んでいる視点があがる。
⑥特別支援教育	児童についての理解を深め、それぞれの児童の困り感が減るように支援していく。	児童の困り感に対する支援を、専門相談や校内支援委員会等を通して行い、実践していく。	生徒指導部 (特別支援コーディネーター)	これまでも、児童の困り感が軽減するように支援方法をえてきた。引き続き支援方法を検討し、実践していきたい。	【努力指標】 支援が必要な児童について現状を把握し、支援の在り方を見直す。	児童の現状を把握し、支援の在り方を見直し、実践できたと判断する教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	教職員アンケート(学期末)	A	A	今後校内支援委員会等を通して、児童の現状を把握し、支援が必要な児童に対してどのような対策をとるか検討していく。状況に応じて、専門相談等との外部機関とも連携する。
⑦組織運営・業務改善	業務の平準化をめざす。	部会で業務の分担や行事内容の精選について検討する。	学校運営委員会 (教頭・各主任)	業務改善の意識は高まりつつあり、協力体制も大きい。主担当者の負担が大きくなりがちである。	【努力指標】 各部会が業務が平準化されるように内容を整理し、適切に仕事を分担し、実施することができている。	業務が平準化されるように計画し、実施することができたと判断する部会が平均値で A: 3 B: 2以上 C: 1以上 D: 1未満	毎回の部会でチェック	B	B	平均値は、1回目では2.5、2回目では2.2であった。今年度は特に全職員での協力体制はあったが計画段階で昨年までと同様に進めることができず各主担任の負担が増えたとのもも原因だと受け止めた。今後の行事の在り方を見直しながら業務の改善を進めていくことが必要である。
⑧研修	「読むこと」の力を高める授業づくりを研究する。	個の「読む」力を高める授業を工夫する。	研究推進委員会	本校の若手の占める割合が半数以上を占めている。これまで行ってきたOJTを、より若手層に還元できるように計画的な研修を行う。	【努力指標】 個の「読む」力を高めることを意識した授業改善に取り組んだと判断する教員の割合が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	個の「読む」力を高めることを意識した授業改善に取り組んだと判断する教員の割合が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	教職員アンケート(学期末)	A	A	個の「読む」力を意識した授業改善、特に「学び合い」「振り返り活動」に重点を置いた実践ができた。3学期には校内研修会を持ち、指導主事からの助言を基に、さらに「読む」力の向上を目指して研究を継続する。
⑨保護者、地域との連携	地域の人材を活用した教育活動を推進する。	個の「読む」力を高める授業を工夫する。	教頭 各担当	児童の教育活動の充実のために、より積極的な連携。継続的に地域人材や保護者、学習の素材となる場所を活用する。	【満足度指標】 地域人材等を教育活動の中で積極的に活用し、教育効果を高めることができる。	地域人材等を積極的に活用し、教育効果を高めることができたと判断する教職員と保護者が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	教職員アンケート 保護者アンケート(学期末)	B	A	新型コロナウイルスにより活動が制限される中でも、全学年で地域の方や市、県の事業の協力を得た多様な学習を行い、学習効果を高めることができた。今後も地域の人材や学習の素材となる場所を積極的に授業に取り入れていきたい。
⑩教育環境整備	ICT機器を活用し、児童が意欲的に活動できる教育環境を整備と教職員の業務改善を推進する。	ICT機器を活用し、児童が意欲的に活動できる教育環境を整備と教職員の業務改善を推進する。	事務・教頭・視聴覚担当	Wi-Fi環境を活かし、デジタル教科書等のICTを有効活用した授業を積極的に取り入れ、児童も効果活用できるように更なる整備を行う。	【努力指標】 ICT機器等を活用し、児童が意欲的に活動できる教育環境や自身の業務改善を目指す。	月1回以上デジタル機器を活用して授業や業務改善に取り組んだ教職員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	Google Chromeの導入によりICT機器を活用しての指導の場面が多く見られた。ICT支援員も上手に活用しながら、今後もさらに教育環境や業務改善をめざしていきたい。	A	A	Google Chromeの導入によりICT機器を活用しての指導の場面が多く見られた。ICT支援員も上手に活用しながら、今後もさらに教育環境や業務改善をめざしていきたい。
学校関係者評価	・あいさつは他の地域の学校と比較してもとてもよくなっている。 ・新型コロナウイルスによる子ども達の心理状態が心配である。これからも保護者、地域と学校が連携して心身ともに健康な子ども達を育ててほしい。また、先生方も心身ともに健康であってこそ質の高い教育が行える。働き方を考えて疲労が蓄積しないようにしてほしい。 ・加賀市の学校で積極的なICTの活用が行われているが、最低限の個人情報を守るとを前提に、コンピューター端末の活用のルールや目が悪くならないようにする等の保健指導、ゲームなどの依存症にならないようにするといった、上手にICT機器を活用できる子ども達を育ててほしい。 ・中1ギャップにならないように、中学校と連携して早めの対応を心がけてほしい。									